

解説 The SUISHIN

ベトナム進出の経緯とホーチミンプロジェクト Package Gの受注について



やすだ かずなり
安田 一成

ヤスダエンジニアリング(株)
専務取締役

1 ベトナム進出のきっかけ

弊社がベトナムに進出をして5年余りが経過致しました。ただ単純に、「ベトナムでビジネスチャンスがあるかな?」との思いでベトナムの地に足を踏み入れ、そこでベトナムの雰囲気肌に触れ直感的に「ベトナムでの地下インフラ整備には推進工法が必ず必要だ!絶対にビジネスにしてやる!」と、強烈に感じただけで今日まで歩んできました。

そもそも、ベトナム進出のきっかけですが、我々推進工法の専門業者にとって国内の環境は厳しくなってきました。社会インフラ整備の成熟も相まって公共事業投資額が減少し、また少子高齢化、人口減少とこの先明るい材料が少ない中このまま会社経営を行うには難しいと感じていました。

そこで弊社では、韓国や台湾などの市場に参入し開拓を行ってきましたが、これらの国々では、市場はあるのですが中途半端に推進工法の地元会社があり、日本の技術力だけでは安定的な受注を行う事ができませんでした。

2010年6月、弊社の韓国法人社長が知り合ったベトナム人(後述のチャン氏)が、会社を訪ねてきました。そし

てそのベトナム人が私に「一度ベトナムに行ってみませんか?」となり、ベトナムに行くことになりました。

たまたまベトナムに行く前日に、当時の前原国土交通省大臣が「ベトナムで下水道整備を行います」とプレス発表を行ったニュースを見て「え!明日からベトナムだけど、日本国としてベトナムの下水道整備を行うんだ!!」と思い、ベトナムでの事業開拓と言う野心に火が着きました。

初めてのベトナムは、古い町並みではありましたが、経済発展の雰囲気があり、建築中の高層ビルが多数存在していました。「ここで下水道整備を行うには、必ず推進技術が必要だ!」と強く感じました。



写真-1 ベトナム人パートナー チャン氏

2 国交省への訴え

ベトナムで推進工法の市場開拓に火がついたので、どの様に攻めていこうか考え、まずは我々の業界団体である(公社)日本推進技術協会の石川専務理事に私の考えをお話しさせて頂きました。早速、協会として国交省との交流会を開催して頂くことになり、交流会に、当時の加藤下水道事業調整官と本田課長補佐が出席されていました。交流会で私は「日本の推進技術は世界でもトップクラスです。しかしながら、このまま日本にとどまれば、会社の未来はありません。かと言って、推進工法の専門業者は皆中小企業なので簡単に海外進出はできません。なので、何らかの形で支援を受けたい」と訴えました。そこで初めて加藤調整官と本田課長補佐に、我々の現状を理解して頂くことになりました。

3 国交省とベトナム建設省と下水道分野における技術協力覚書

2010年10月、本田課長補佐から「安田さん!国交省とベトナム建設省とで下水道分野における技術協力の覚書を交わす調印式を年末に行いますよ!!興味がありますか?もしあるなら、調印式の



写真-2 左奥がハイ氏



写真-3 チン前建設副大臣

参加企業のリストに入れますがどうしますか?」とお話があり、私は二つ返事で「ぜひ参加させてください」と答えました。

私は国交省がこの様なことをベトナムで行うのかと非常に興奮し、さらにベトナム進出に対して火がつかしました。

調印式当日、副大臣による調印が終わり、日越下水道セミナーが開催され、参加企業がプレゼンを行いました。推進工法のプレゼンは一番最後で与えられた時間は2分ほど、相手側も疲れ切った表情で推進工法の話聞いていました。でもそこで私の目に映った彼らの表情には、明らかに興味の色があるように見えました。ただ私は、ベトナム建設省の人間など全く分からないので、隣の席に座っていたベトナム人とだけ名刺交換を行い、「後日、必ず会いに行くのでよろしくお願いします」と伝えました。どこの部署の方か分かりませんでした。建設省の人だろうと思いましたが、後にはしました。

そして帰国後、チャン氏にこの名刺の人にはアポを取って会いに行こうと伝え、翌月会いに行きました。その方はハイ氏と言い、建設省を引退され都市計画を行ったり、専門誌を発行する公社にいらっしゃる方でした。その場で私が推進工法のプレゼンを行ったところ、ハイ氏の反応は上々で、「ベトナムでは必ずこの技術が必要だ」と興味を持っていただきました。私は、推進工法のプレゼンを色々な場所で行いたかったので、協力

してくれとお願いしました。

そしてハイ氏から、「今ここに私の上司がいるから紹介するよ!」という事で紹介して頂いたのがチン氏と言う方で、前の建設副大臣でありました。

余談ではありますが、その1年後にチン氏の義理の息子であるウォック氏と、全く別の場で知り合うことになり、その食事の場で私はウォックさんに「義理のお父さんのことを知ってるよ!」と言うとウォック氏は驚いていました。ウォック氏は現在清水建設の社員でホーチミンメトロ1号線にも携わっています。

4 ベトナム人 推進工法研修生の招聘

2012年2月に国交省が推進工法研修生の招聘を行い、ベトナム建設省、ハノイPMB、ホーチミンUCCI、ハイフォン下水道局から4人が来日し研修を行いました。

そこで私は、右も左も分からない彼ら

と2週間飲食を共に行き、下水道整備やベトナムの経済発展について熱く議論を交わしました。

彼らが帰国後、すぐに私も訪越し彼らのもとへ感想を聞くべく訪問をし、その時に彼らの上司を紹介して頂きました。今では彼らがベトナムの下水道整備の中心人物であり、推進工法の規格基準作りを担当しているメンバーでもあります。

5 推進工法プレゼン行脚

ハイ氏より色々な方の紹介を受けながら推進工法のプレゼンを行いました。ただ相手がどの様な機関なのか、どの様な部署なのかさっぱり分かりませんでした。とにかく弊社の推進工法の技術をプレゼンしまくりました。また、セミナーなどにも参加させて頂き、プレゼンの機会を与えて頂きました。それによって推進工法の認知度が上がってきました。

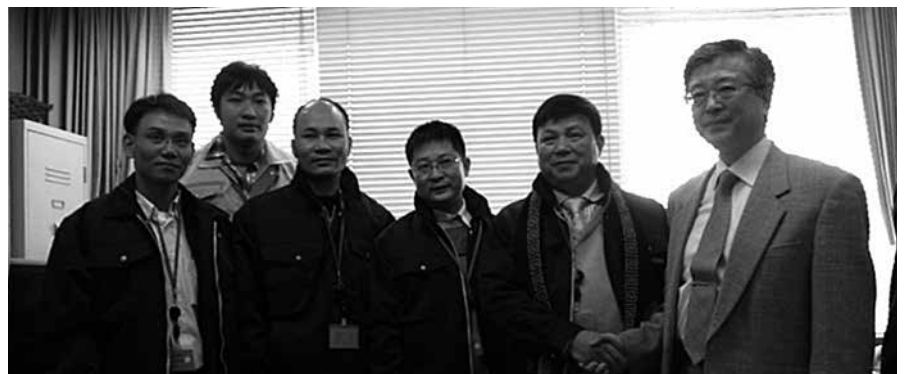


写真-4 当時の岡久部長(右端)と研修生4人(前列)とチャン氏(後列)